

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和4年度 第6回高松市在宅医療介護連携推進会議
開 催 日 時	令和5年3月8日(水) 19:00～20:15
開 催 場 所	高松市医師会館 2階 大会議室
議 題	1 退院支援・医療介護連携部会より 2 在宅医療コーディネーター部会より 3 多職種連携部会より 4 ICT 部会より 5 在宅医療支援センターの報告について 6 その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出席委員	19人 吉澤委員長、大原職務代理、綾田委員、井上委員、大橋委員、片山委員、北代委員、香西委員、田中邦委員、田中昌委員、辻委員、永岡委員、橋本委員、花房委員、林委員、古川委員、松本委員、三橋委員、和田委員
関係者	市医師会事務局(5人) その他: 医師会(和田副会長、西口理事、塩見理事、井垣理事、香川理事)、県長寿社会対策課(1人)
傍 聴 者	0人
担 当 課 及 び 連 絡 先	長寿福祉課 地域包括ケア推進係 839-2346 在宅医療支援センター 839-2344 介護保険課 839-2326 地域包括支援センター 839-2811 保健医療政策課 839-3805

協議経過及び協議結果	
1 退院支援・医療介護連携部会より (Q 委員より報告) (1)次年度の計画について <部会の開催>偶数月 第3金曜日 19:00～ <医療介護連携ミーティング> 1回目: 5/28(日)、2回目: 10月頃 <入退院支援ルールの周知・啓発> ルールの見直し、報酬改定、入退院支援の流れ、スムーズな連携のための7か条を意識しながら業務にあたる。チェックできるようなシートやフォームについて検討していく。それを様々な場面で活用していくことで意識づけにつながっていく。 <在宅医療介護情報サイトの維持・管理> (2)R5 第1回 医療介護連携ミーティング 日時: 5/28(日)9:00～12:00 場所: 高松市医師会館 開催方法: ハイブリッド形式 内容: 医師が処方した薬を正しく飲めているか、薬剤師の業務について(対物支援から対人支援へ)等アドヒアランスの向上に向けて多職種で検討を進める。 4月の部会で内容を決定したい。	
2 在宅医療コーディネーター部会より (C 委員より報告) ・第4回養成研修会を2/7に開催した。テーマ: 認知症高齢者のコーディネーション 講 師: いわき病院 中村光夫 医師 ・これまでのグループワークでは、すぐにサービスを導入する傾向が強かったが、なぜそのサービ	

スが必要なのか、具体的な話し合いが出来るようになってきた。

- ・第5回養成研修会は、昨日 3/7 に開催された。「実際の在宅医療の現場」をテーマに、ビデオ学習により、グループワークを実施した。
- ・第6回養成研修は、3/19(日)の午後に修了証書授与式及び公開講座を開催する。
<公開講座>テーマ：「いのちが輝く在宅医療を目指して」
講 師：馬木 良文 氏(徳島県吉野川市 医療法人 あおぞら内科 院長)
・神経難病の専門医で、医療的ケア児の対応も行っている。

A 委員

3/19 午後、委員の皆さん方にも、ぜひ参加していただきたい。

3 多職種連携部会より (B 委員より報告) ※この後に、部会開催
今年度の研修会を開催した。

日時：2/11(土) 13:30～16:15 場所：高松市医師会 開催方法：ハイブリッド形式

全体テーマ：with コロナで気づいた多職種連携の底力

<内容>

◎特別講演：テーマ：コロナによる地域フレイルからの脱却とコミュニティケア

講 師：武田以知郎医師(奈良県明日香村国民健康保険診療所 管理者)

◎話題提供(医師、訪問看護師、薬剤師、介護支援専門員、通所介護事業所、訪問リハビリなど6人)◎パネルディスカッション

<結果>

- ・参加者 129 人(医師:18 人、介護支援専門員:33 人、薬剤師:26 人、看護職:19 人等)
- ・健康の社会的要因、フレイル、社会的処方、コミュニティナース等についての話があった。
また、Dr.イチローの妄想と題して、ナイトケアで飲み屋のスタッフが介護士の資格を持っていて、客の健康管理や、嚥下食に対応する居酒屋があればという話があった。
- ・話題提供は、それぞれのパネリストからコロナ禍での課題やそれにどのように対応したかなど振り返りや会員へのアンケート調査の結果からまとめたもの、ICT ツールの活用で業務を回していったなど多岐に渡る内容であった。
- ・参加者へのアンケート結果からは、よく理解できたと答えた人が大多数であった。また、地域でどのくらい多職種連携ができていのかを問う設問では、平均 5.6 点(R3 年度:4.7 点)だった。意見等細かな部分については、部会でディスカッションしていきたい。

A 委員

- ・大勢参加していただき、成功裏に終わった。先生の講演も非常に分かりやすく、あまり今まで聞いたことがないような地域全体を巻き込むような連携をしていくという内容だった。社会的処方という話の中で、紹介された本を買って読んでみたが、その地域で何か行事をするときに、医療者とケアをする人たち、我々、多職種がそこへ出向いていき、連携を図っていくことである。それが社会に対してのいわゆる「処方」でお薬を出すのと同じようなこと。そこからいろんな問題が出てくるし、副反応も起こる。でも、これを読んでいて、今、養成している「在宅医療コーディネーター」の活動場所として非常にいいところではないかと感じた。
- ・研修会を通して、コロナで多職種が、それぞれの知恵を絞って頑張ってくれていることが非常によく分かった。頭が下がるような話ばかりであった。大勢の関心を集める話題で良かったと思うので来年度も頑張って続けていきたい。

4 ICT 部会より(事務局より報告)

【在宅ケア便利なびのデータ更新】なし

【医療介護連携ツールの活用】

キントーンのプログラミング中。予算によって、入退院支援情報共有シートの項目が、どこまで反映できるかわ変わってくる。

A 委員

ICT 化については、予算のことがあり、なかなか難しいが、キントーンのクラウド化をなるべく

早く進めていきたいと思う。

5 在宅医療支援センターの報告について

1・2月の活動報告を行う。

《1・2月分》【相談件数】1月：18件 2月：16件

《相談事例紹介》

【県外の療養型病床から在宅医療への相談(介護者が高松市在住)】

【1月に報告した相談事例】その後も何度か関わりを持った結果、受診に結びついた。

今後も在宅医療支援センターが中心となり、連絡・調整を図りながら在宅移行へ支援していきたい。

A 委員

事例は非常に貴重なので、ぜひ、何らかの形でまとめておいて、今後の研修会やミーティングなどで活用するのはどうか。

6 その他

(1)令和5年度の事業計画について(資料5参照)(事務局より説明)

- ・次年度は、既存の事業を進めながら、事業全体の見直しを合わせて行う。
- ・在宅医療介護連携推進会議…奇数月第2水⇒奇数月第2月に変更。休みの場合には変更あり。
- ・退院支援医療介護連携部会…偶数月第3金で今年度と変更なし。
- ・在宅コーディネーター部会…コーディネーター養成研修(6回目:公開講座)、スキルアップ研修
- ・多職種連携部会…研修会1回、出前講座等を通してACPの普及・啓発
- ・ICT部会…在宅ケア便利なびの更新、医療介護連携ツールについて検討(予算の状況をみながら)

(2)地域包括支援センター サブセンター山田の移転及び地域包括支援センター香川の委託モデル事業について

- ・R5.4/1 山田総合センターが開設されることに伴い、サブセンター山田の執務室が、新しい総合センター内に移転する。担当地区、ランチの老人介護支援センターは、特に変更なし。
- ・現在のサブセンター香川は、同じく4/1より、2年間の委託モデル事業が開始される。名称が、地域包括支援センター香川となり、担当エリアは、香川・香南・塩江でこれまでと変更なし。

(3)小児在宅医療について(A委員により説明)

- ・1月に開催された四国四市医師会 web 会議で、徳島市から小児在宅医療の取り組みについて質問が出ていた。高松市は、まだ取り組めていないと回答した。松山市は、委員を選任して検討している状況、高知市も取り組みは未だの状況である。徳島市は、取り組もうとしているが、取り組む医師が少なく行き詰まっている状況である。
- ・医療計画の中で、小児在宅医療に取り組むようになっているので、高松でも考えていかないといいけない。患者の実態を正確に把握できておらず、組織立てて介入もできていない。
- ・高松市では、医療的ケア児支援事業に関するガイドラインが改訂されている。
- ・行政も交えて議論する場がないと、前に向かって進まない。この会議で、すぐにはできないと思うが、在宅小児のケア児について考える仕組みがないので、手をつけないわけにはいかない。

(4)国保・高齢者医療課から在宅医療に関するデータの提供について(事務局より説明)

- ・在宅医療に関連する診療行為のレセプト件数を抽出したものを、様々な形で分析した。
 - 令和2～4年度のレセプト件数は増加の一途をたどる。
 - 診療行為の中でも特に、在宅患者訪問診療料が約6割を占める。
 - エリア別では、本庁、仏生山エリアが訪問診療に関する診療件数が多い。また、診療行為の中でも、在宅訪問診療料、施設入居時等医学総合管理料の占める割合が多い。
- ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施にあたり、COPD 受診勧奨事業や糖尿病治療中断者の受診勧奨事業及び運動習慣獲得のための出前健康教室等も行っている。
- ・このデータを持ち帰っていただき、どのようなデータがあったらよいか等ご意見をいただきたい。

(5)3/19 開催:第6回在宅医療コーディネーター養成研修終了証授与式・公開講座について(事務局より説明)

- ・修了証の授与式及び公開講座、その後、委員には、講師や受講生と集合写真の撮影があるので、

準備をお願いしたい

【次回の会議】 令和5年5月15日（水） 19：00～ 高松市医師会館